

第70回日本臨床眼科学会

The 70th Annual Congress of Japan Clinical Ophthalmology

ランチセミナー 9

日時：2016年11月3日(木) 12:30～13:30

会場：第11会場

(グランドプリンスホテル京都 B2F プリンスホール2)



座長

中澤 徹 先生

(東北大学)

座長のことば

近年の眼科画像診断の進歩は著しく、Swept Source OCT (SS-OCT) 技術により、鮮明な眼底断層画像がより高速に得られるようになりました。更には1 μ m帯域の波長により今まで見えていなかった眼底深部構造が可視化され、OCTの進化は今現在も続いています。Tritonが発売され、先生方にもSS-OCTがより身近な存在になってきたことと思います。装置だけでなく、臨床に本当に必要なソフトウェアも進化しつつあります。緑内障医にとってどれだけわかりやすいソフトウェアで緑内障を定量評価するのがキーであると考えております。そこで、本日のセミナーでは、これまであまり知られてなかった部分にスポットを当て、お二人のエキスパートの先生により、トプコンのSS-OCTによる緑内障診断の定石と進歩について最新の自験例を基にご講演頂きます。まず、面高先生には、新たに加わった”Hood Report”を含めた様々なレポートの活用やOCTによる形態的变化に基づいた進行解析など、SS-OCTの特長を活かした緑内障診断の進歩について講演頂きます。続いて、山岸先生には、見えないものが見えるようになったことで、日常診療に役立つ緑内障診断の定石について、最新のOCT Angiography所見も含め講演頂きます。“そうなんだ”と驚きと楽しいひと時になればと思います。多くの先生方のご参加をお待ち致しております。



演者1

面高 宗子 先生

(東北大学)

緑内障診療の向上へ繋ぐ
OCTソフトウェアの進歩

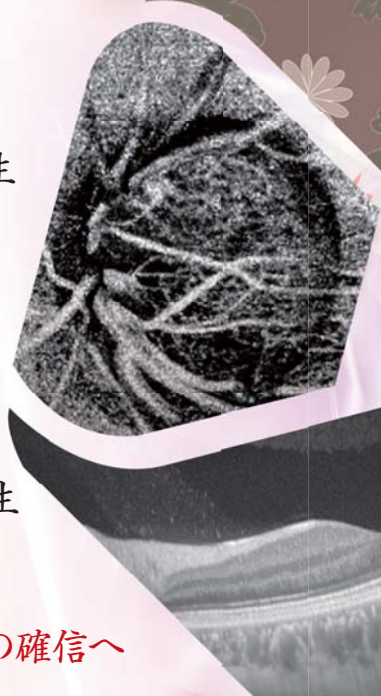


演者2

山岸 和矢 先生

(ひらかた山岸眼科)

革新的映像力の緑内障診断 -
スウェプトソース OCT が緑内障医の確信へ



スウェプトソースOCT
「緑内障診断の定石と進歩」
秘話ヒストリア